

## 第2回 湖南省子ども・子育て支援事業計画策定部会（概要）

日時：令和元年9月6日（金）午前9時30分～

場所：湖南省役所東庁舎3階第2会議室

### ■出席委員（湖南省子ども・子育て未来会議委員）（◎が部会長、○が副会長）

◎池村委員、平井委員、勝井委員、中島（扶）委員、中島（秀）委員、奥村委員、野村委員、○大黒委員

### ■会議次第

1. 開 会

2. 議 事

1) 子ども・子育て支援事業計画について 目次構成案

素案（第1～3章）【資料1・2】

2 今後のスケジュールについて

3. 閉 会

### ■主な審議内容

#### 議事1 主な質問や意見

質問①：病児保育の受け皿は足りているか。

回答①：市内に2箇所あり、概ね充足している。しかしまだ知らない方も多いかも知らない。

意見②：豊かな社会を続けていくためには、やはり働く方を支える、経済活動を一定に保つためには女性の社会進出が必要。保育園にいる子どもが熱を出したときに、母親だけでなく、父親が迎えにいけるような環境でないといけない。もう1つは、やはり子どもたちは本当にこれからの日本社会を支えてくれる大きな宝である。そこに対して湖南省長だけでなく地方自治体のトップが子どもたちに対する予算をどんどんつけて、そして企業に対してもそのような、男性が休めるようなところまで口出しするくらいの思いをトップが持つておかないと、ここでいくらい議論をしてもいい施策ができたとしても、それが予算に反映されなければ意味がない。

意見③：労働力が不足しているのは工業団地でも、よく聞くことで、外国籍の方をどんどん雇っている。労働力を海外に求めると子どもを連れて来られる。子どもも外国籍が多い。ただ言語の違いで、こういった施策が浸透していないのではと感じることが多々ある。特に日本語とポルトガル語の両方を獲得している子どもは両方とも中途半端なので、両方とも理解ができていないことがあったりする。そのあたりの支援が、これからも海外に労働力を求めるのであれば、す

ごく重要。

意見④：今、湖南省では入国後、約半年間、日本語を習得する指導を受けたあと学習に入っていくのだが、日常会話はある程度習得できたとしても、教科の中身にはとてもついていけない。入試でつまづく。

意見⑤：それはすごく気になっていて、中学を卒業しても高校を中退し、就職する。就職してもうまくいかない、無職の状態が続くと、リーマンショックのときに経験したが、仕事がないことですごく地域が荒れた。地域が荒れることは子どもたちにすごく影響する。

意見⑥：障がい児だけでなく、生きづらさを抱えた子どもが一杯いる。その方々に対するサポート体制をどうするかが問われている時代だと思うので、今回の計画にはそのことも含めて実施されていく必要がある。家族など自助でやれる人はいいが、今のような生きづらさを抱えている人や外国人は、中には自助ができないこともあると思う。

質問⑦：就学前児童の子育て支援でもっと力を入れてほしいもの、就学児童の子育て支援でもっと力を入れてほしいもので、3つ高いものがある。1つは「子育てのための経済的支援の充実」、1つは「小児救急医療体制の充実」、もう1つは「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」、この3つが共通して高い。これについて、どこかに反映しているのか。

回答⑦：今後、施策の展開の中で、具体的な方針を挙げていくことはできる。

意見⑧：他市で生活困窮家庭などの子どもに関わっているが、ものすごく子どもたちが深い悩みと課題を持っている。勉強だけを教えたらいいものではなくて、その子どもを丸ごと捉えて、共に歩んでいくというシステムがこれから必要。

回答：発達の課題を抱えた子どもだけの支援ではなくて、全ての子どもに対してその子特有のいろんな課題がある。でもその課題というのは親の課題でもあるかと。湖南省では2020年4月から、4つの公立園に地域の子育て支援拠点を設置する。そこは妊娠期からずっと子どもが自立するまで支援を行う機関として、保健センター等と連携しながら支援をしていくが、その中でひとり親や外国籍の方など、様々な相談を聞きながら、そこが核になり、専門機関につないだり地域の力を借りたりしながら、その方々に寄り添った支援を進めていきたいと考えている。この事業計画に全てを盛り込んでいくことは、なかなか難しいかもしれないが、施策の展開の中でご意見の中から盛り込んでいきたい。

意見⑨：P26、27に就学前と就学時の保護者の相談とのことで、いずれも発達支援室が5%や4%と出ている。また、P30、31に、就学前と就学時の「子どもの発達に心配があっても支援が充実している」が、就学前は35%で就学時が

54%ですごく高い。これもまさに湖南省の特徴、強みだと思う。発達支援システムだが、先ほどから出ているようにいろんな子どもがいるので、その中で発達支援も含めてどのように取り組んでいくのか、今までのどちらかと言うと縦割りの制度や仕組みで動いてきたが、それを少し広げていくようにしていけないといけない。それがまちづくりにつながる話だと思っているので、その意味ではぜひ計画にインクルーシブの考え方を入れて欲しい。やはり障害があっても無くても、あるいは生活の生きづらさがあっても無くても、湖南省で暮らせる街を作っていこうという象徴がインクルーシブとされている。